

1

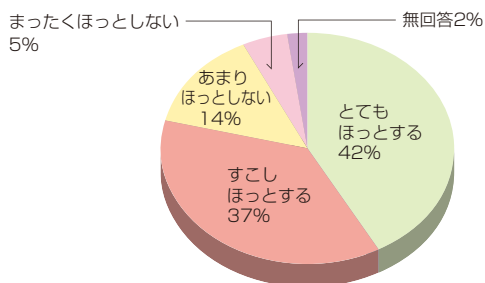
家庭の役割と子どもとの関わり

(1) 家庭の役割

★子どもは、「ってきます」、「いってらっしゃい」、「ただいま」、「おかえりなさい」など、毎日繰り返される、保護者や家族からの言葉かけや会話を通じた関わりの中で、家庭が安らげる場であることを、実感します。家庭は、「団らん」の場であり、大切な安らぎの場です。子どもと関わる時間を大切にしていきたいと思います。

★家庭は、子どものいのちと育ちが大切にされる場です。子どもの健やかな成長のために、家族で温かな関わりをもてるようにしましょう。

図1 「家に帰ったときほっとする？」

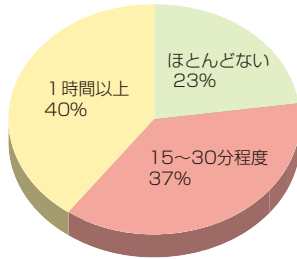


約8割の子どもが、「家に帰るとほっとする」と答えています。

平成22年10月実施福島県家庭教育調査〔児童アンケート〕



図2 「父親が子どもと接する時間」(平日)

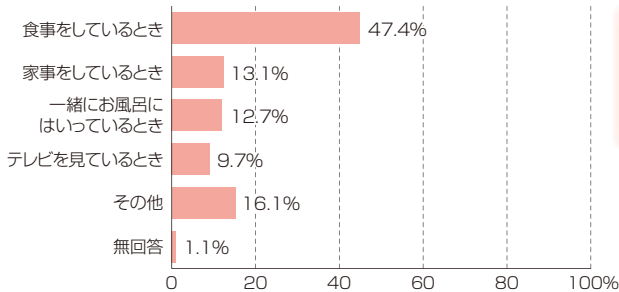


平成19年度低年齢少年の生活と意識に関する調査(内閣府)

およそ4人にひとりの父親が、平日に子どもと接する時間が「ほとんどない」と答えています。

限られた時間の中で、関わりの質をどれだけ高められるかが重要です。

図3 「子どもと話すのはどんなとき？」



平成22年10月実施福島県家庭教育調査【保護者アンケート】

保護者が子どもと話すのは「食事をしているとき」が約半数にのびりました。

忙しい日常生活の中で、食事やお風呂など子どもと一緒に過ごせる時間を大切にして、子どもとの関わりを充実させていきましょう。

◆ 参 考

思春期になると、子どもが保護者の話を喜んで聴くことは難しくなります。思春期までに、こうした関わりを通して、子どもとの信頼関係(子どもと保護者との絆)をどれだけ創ることができたかが、思春期以降の子どもと保護者との関係に深く影響します。

(2)子どもとの関わり

～スキンシップの大切さ～

★スキンシップは、自分が十分受け入れられていることを、子どもに肌で感じさせ、情緒が安定し、人間関係の基礎となる社会性を育てることにつながります。発達に応じて、子どもとのスキンシップをしましょう。

生まれてから発達に応じて必要なスキンシップの質と量があり、その子に適した方法で触れ合うことが大切です。

思春期になって、保護者からのスキンシップを嫌がるようになっても、子どもが落ち込んだ時に肩をなでるなど、ワンポイントのスキンシップをすることで、短時間であっても言葉で伝える何倍もの感情が伝わります。

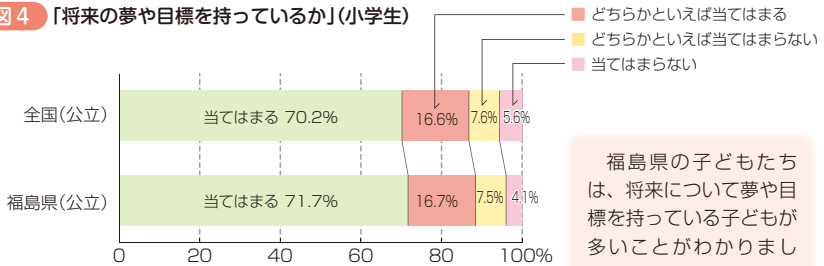


～子どもをほめて励ます～

★子どもは、大人が自分に関心をもってくれていることを実感することで、意欲を高め、次へのステップへとチャレンジできるものです。日頃から子どもが努力する様子を見守り、頑張っていることをほめて励ましましょう。

将来についての夢や目標は、子どもたちの努力しようとする意欲を支え、はぐくみます。

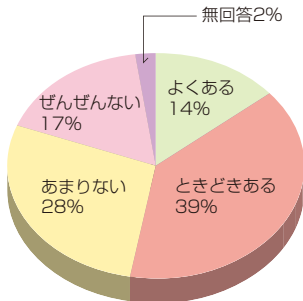
図4 「将来の夢や目標を持っているか」(小学生)



平成22年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)

福島県の子どもたちは、将来について夢や目標を持っている子どもが多いことがわかりました。

図5 「がんばってもどうせうまくいかないと思うこと」



平成22年10月実施福島県家庭教育調査[児童アンケート]

「がんばってもどうせうまくいかないと思うこと」について、「よくある」、「ときどきある」と回答している子どもが半数を超えました。

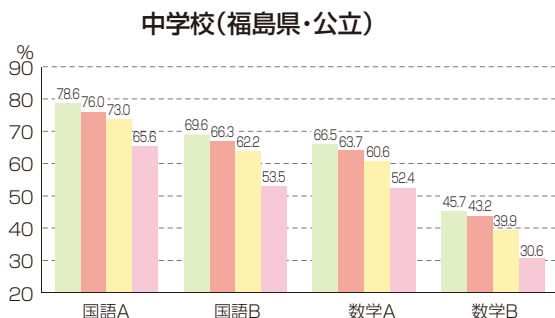
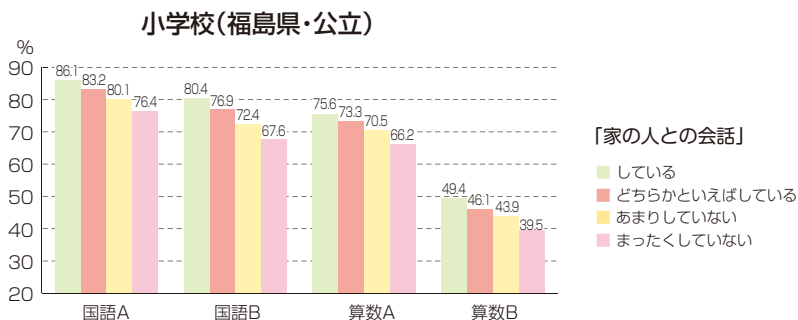
福島県の子どもたちは、将来についての夢や目標をもっているのに、「がんばってもどうせうまくいかない」と思う傾向のあることが、この図4・5のグラフから読み取れます。

～子どもの話を聴く～

★毎日短い時間でも、子どもの顔を見つめて話を聴いてあげましょう。大人が聴き上手になって、子どもが安心してたくさん話せるように関わりましょう。

子どもは、保護者に話を聴いてほしいと願っています。保護者が子どもの話を聴くことで、子どもは保護者に受け入れてもらった安心感と、認めてもらったことにより、自分を大切に思う気持ちを高め、前向きに意欲をもつことができます。

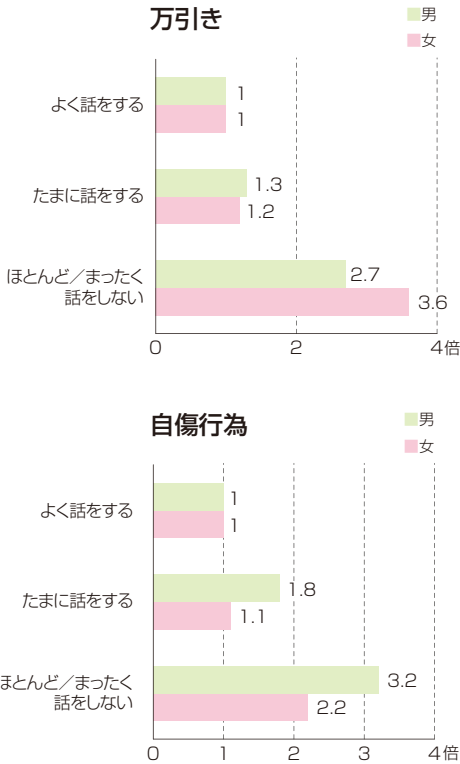
図6 「家の人との会話」と「学力調査正答率」との関係



家族との会話の多い子どもほど、学力テストの正答率が高いことがわかります。

平成22年度
全国学力・学習状況調査(文部科学省)

図7 「家族との会話」と「問題行動(万引き・自傷行為)」との関係



「ほとんど／まったく話をしない」子どもは、「よく話をする」子どものおよそ3倍の割合で問題行動がみられました。

※自傷行為…リストカットなどの自分を傷つける行為

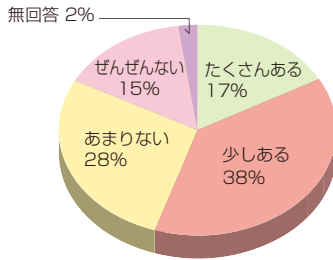
全国中学生調査2006(京都大学大学院研究科准教授木原雅子氏調査)
参加者数:男子4,060人、女子3,984人



～子どもの自己肯定感を高める～

- ★自分を好きだと思える自己肯定感の高い子どもほど、意欲や前向きな気持ちをもっています。ほめられて自信をもつことが自分を好きだと思える気持ちを高めます。子どものよさを見つけ、ほめて自信をもたせましょう。
- ★自分の話を聴いてもらえることで、受け容れられた安心感と自分の存在を大切に思う心が育ちます。家族との会話が多くのほど、子どもは、自分を大切に思う自己肯定感を高めます。子どもの話に耳を傾けましょう。

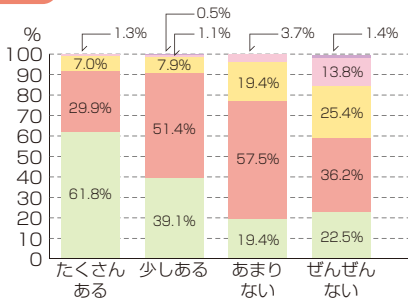
図8 「自分の好きなところがあるか」



「自分の好きなところがある、少しある」と答えた子どもは半数以上おり、逆に「自分の好きなところがない、ない」と答えた子どもも半数近くにのびりました。

平成22年10月実施福島県家庭教育調査〔児童アンケート〕

図9 「自己肯定感」と「努力後の達成感」との関係



「自分のここが好きだと思える」ところ

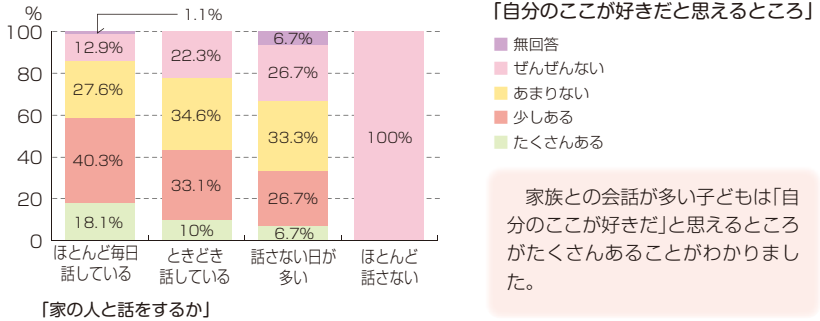
「がんばってよかったと思えること」

- 無回答
- ぜんぜんない
- あまりない
- ときどきある
- よくある

「自分のここが好きだ」と思えるところがたくさんある子どもほど、「がんばって、よかったな」と思えることが多くなることがわかりました。

平成22年10月実施福島県家庭教育調査〔児童アンケート〕

図10 「自己肯定感」と「家の人との会話」との関係



平成22年10月実施福島県家庭教育調査〔児童アンケート〕

◆ 参 考

子どもの自己肯定感(自分を大切に思う気持ち)は、その発達段階までの周りの大人、特に保護者の関わりによって決まります。周りの大人から肯定的に関わってもらった子どもは、自分を大切に思う気持ちを高め、前向きで意欲的な自己像(セルフイメージ)をもちます。

